

びわこ文化公園植物だより〔β 版〕

ザイフリボク バラ科

学名: *Amelanchier asiatica*

・公園内の山林に自生



桜があらかた散ってしまった4月の第2週、びわこ文化公園南端の源内峠遺跡から少し下ったあたりで、1本の高木の梢だけが、雪が積もったように真っ白に輝いていました。満開のザイフリボクでした。

ザイフリボクは本州・四国・九州に広く分布する落葉

高木です。絶滅危惧種というほどではありませんが個体数が少なく、なかなか出会えない樹種です。公園内のこの1本も大切にしたい木です



ザイフリボクとは変わった名前ですが、漢字で書くと「采振木」となります。やや細長い白い花弁が枝先にたくさんつくようすを、戦場で大将が振る「采配」に見立ててつけられた名前といわれています。采配を「ざい」ということは、江戸時代前期の軍学書『甲陽軍鑑』などに例があります(『日本国語大辞典』)。一方、「広島大学デジタルミュージアム」は、「采」(ざい)を鷹狩りの際に用いられた道具としています。形としては同じも

のですが、この木を「ザイフリボク」と名付けた人が頭に描いていたものは戦でしょうか、鷹狩りでしょうか？

近年、北米原産のアメリカザイフリボクが庭木として人気です。アメリカザイフリボクは葉・花・実のいずれもザイフリボクによく似ていますが、高木にならずに実がつくので、庭木には適しているようです。英語でジュンベリーと呼ばれるとおり、実は6月頃に赤から黒紫色に熟し、ジャムなどに利用されます。一方、日本のザイフリボクのほうは実が秋に熟します。

花が終わるとザイフリボクは目立たない雑木の一本となり、どこにあるかわからなくなってしまう。しかし、この場所のザイフリボクには、ボランティアグループ「森の風音」のみなさんが写真入りの樹名板をつけてくださっているので、たずねあてることができるでしょう。



ザイフリボクは[ここ](#)で見ることができます。
(Google マップにリンク。10m程度の誤差が出ることがあります)

(龍谷大学農学部・三浦励一)